

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600226		
法人名	社会福祉法人 歌垣福祉会		
事業所名	グループホームうたがきの里		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字築切264番地1		
自己評価作成日	平成29年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年11月10日	外部評価確定日	平成29年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田園地帯の中にあり、近くには小学校や保育園があり環境にめぐまれ、散歩時には小学生が声をかけてくれたり、散歩中の園児が立ち寄り一緒に話をしたり、歌をうたったりしています。また、利用者様に楽しんでいただけるようレクリエーション、各種行事に思考を凝らし、生活リハビリや散歩による気分転換や身体機能の維持に努めています。晩秋になると佐賀の名物でもあるバルーンが上空まで飛んでくる事があり利用者様、職員一丸となり手を振る光景もあります。また、ホームの菜園で採れた野菜を美味しく頂き、今年は奈良漬、酢しょうがなど漬物にも挑戦しご家族にも食べていただき「おいしい」と喜んでいただきました。ゆっくりとした雰囲気の中、笑い声が絶えないホームです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>社会福祉法人の理念である「敬愛」「友愛」「親愛」の三愛を基盤にして、どこまでも利用者一人ひとりの思いに寄り添った支援を実践している事業所である。人権を尊重し、ぬくもりのある家庭的な雰囲気環境づくりと全職員が心をひとつにした支援は、利用者や家族に信頼感を生んでいる。地域とのつきあいも密接で、職員がクリーンデーに参加して地域住民と一緒に作業をしたり、散歩や買い物の途中、また隣のデイサービスに出向いて地域の方と会話や挨拶を交わすことも多い。近くの保育園や小学校との交流も盛んである。</p> <p>ホームでの一日は利用者主体でゆったりとしていて、家庭生活の延長を思わせる。毎日でも入れる風呂や三食とも台所で調理される食事は、利用者の楽しみでもある。広いウッドデッキでは外気浴やお茶会も開かれている。利用者の希望で、祐徳院や和泉式部公園など、かつて馴染んだ所へのドライブもある。</p> <p>災害対策にも十分に配慮が払われ、家族にも安心感をもたらしている。消防署や地元消防団、地域協力員の協力を得ての年2回の避難訓練の他にも、毎月避難訓練が行われている。居室入口には、常時「車椅子」「手引き」「杖歩行」「歩行」などの札が掛けられており、安全で確実な避難を期している。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に基本理念と各棟で掲げている介護理念の唱和を行い実践につなげています。	グループホームの基本理念、B棟介護理念を掲げ朝礼時に唱和し実践に繋げています。	基本的な理念を基にして、毎年ユニットごとに具体的な理念を検討している。理念は職員が常に目にふれる場所に掲示されている。毎朝の理念の唱和は、各職員の胸に刻みこまれ、同一歩調の支援の基にもなっている。日常、理念の具体的な支援のあり方を話し合う機会が多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のクリーンデーへの参加や避難訓練時に地元消防団や地域協力員に参加をお願いし、小学校や保育園の運動会の見学、受診時や散歩時に挨拶を交わしています。	年2回地区のクリーンデー参加、散歩時や受診時の挨拶、地区の運動会や保育園運動会見学。避難訓練時は地域協力員、地元消防団の参加を得ています。	近所の方から野菜をいただいたりとかく自然な形で地域との繋がりがあある。職員が地域の行事に参加するほか、回覧板などによる地域との関わりもあり、付近の小学校や保育園との交流により、散歩中の園児が立ち寄りすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練時に地元消防団に支援の方法を伝えるくらいで認知症の理解や支援方法を地域の方に向けかすことは出来ていません。	地域の方との交流は少なく避難訓練時に地元消防団の方へ支援方法を伝える程度です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の状況報告や介護事故、ヒヤリハットの報告を行い、意見を聞くことができています。夜間の合同避難訓練の際は見学をしていただきました。	今期、委員の刷新があり施設の状況報告後は専門的な意見や体験談がありサービス向上の参考になっています。	ホーム便りの地域回覧の有無、大雨時の自主的避難方法、避難訓練時に推進委員も参加希望、他事業所の夢かなえたいの紹介、保育園との交流などいろいろなことが話し合われている。推進委員の交代に伴い、運営推進会議の機能を資料として提供もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席を依頼し日頃の状況を理解していただくと共に、空室が出た際は連絡し紹介していただくよう伝えていきます。また、災害時の避難について意見を聞くことが出来ました。	密な連絡はとはいかないが運営推進委員会に市町村担当者の参加があり制度面や町内高齢者状況等の報告を頂いています。	運営や課題について行政と共有し、解決を図ろうとする姿勢がある。運営推進会議以外にも行政担当課に赴き、スプリンクラーの設置、ハザードマップの確認、法令改正に伴う情報の収集、職員募集など、協力関係を図る一例である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加を行い、職員会議等での報告や意見交換を行い、日頃より話し合いの場を設けたり、見守り、付き添い、声掛けを行うことで身体拘束のないケアに努めています。	職員間で身体拘束ゼロの意識付けがありセンサーマットや人感センサー使用で見守り身体拘束しないケアに取り組んでいます。	計画的な勉強会や会議、外部研修会等を通して、具体的に身体拘束のない支援のあり方についての意識が高い。これまで身体拘束の事例は無い。日中の玄関の出入りも自由で、職員の見守りや同行で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加により職員会議等で報告を行い再認識しています。また、日頃の支援の中で声かけに不十分な点があり反省する点も見られます。	研修会参加と虐待防止委員より職員会議で報告を受け話し合う機会があり日頃のケアに繋げています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加や利用者様の中に安心サポートの利用や生活保護受給者がおられ本人、関係機関と話し合い支援を行っています。	以前に研修会参加はあったが再認識する為に制度を学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、契約書に基づき説明を行い、改定の際も署名捺印を頂き共に納得が得られるように心掛けています。	契約や改定等時には十分な説明をし疑問点に応え納得を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日常生活の中で話を聞き、ご家族には意見箱の設置や毎月のモニタリング、面会時に意見を聞くなどしています。また介護相談員様にも利用者様から話を聞いてもらっています。	家族会や面会時に意見を聞いたり意見箱への投函を依頼し利用者様との会話で得た要望をサービスに反映させています。	家族の面会時に何でも言いやすい環境や雰囲気づくりを心掛けている。ご意見箱を置く、家族会の要望や意見の検討、外部者の気づき等を新鮮なものとして捉える、声なき声に耳をすます等、運営に活かす努力を重ねている。介護相談員制度も有効に機能している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通して意見を求め、普段の支援の中で意見や提案など気付いた点を話し合える場を設けています。また職員が共有できるようノートに記載しています。	職員会議の他、日常業務でも忌憚なく意見が出せる環境であり反映に努めています。	定例の会議や日常の業務の中で腹藏なく話ができる環境である。日常の支援の中での引き継ぎノートの活用、服薬支援の在り方、一人ひとりの状況に応じた車椅子移乗、利用者の席がえ、利用者と共に栽培する畑づくり、職員の疲労軽減やストレス解消の試みなど、いろいろなことが運営に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年ごとにチャレンジシートに各自目標の設定や手段を記載し面談や評価を行っています。労働環境については労働協定により随時整備に努めています。	半年毎にチャレンジシートの提出があり目標設定に基づき達成度と評価を行っています。労務規定により随時、労働環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には担当職員を決め日常業務の方法を指導してもらい、チャレンジシートによる上司の評価や施設内外の研修会への参加及び資格習得を目標にするなど資質向上に努めています。	法人の事業計画において職員の資質向上を掲げており、職務研修や資格取得への特別休暇も制度化しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームによる地域連絡協議会に参加し情報交換や研修会を開催し、白石町主催の医療介護等関係者連絡会議による勉強会等参加により質の向上に努めています。	県老協主催による研修での交流をはじめとしてグループホーム地域連絡協議会主催研修や職場内研修を通じてスキルアップに努めています。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に担当ケアマネより情報を得、利用者様本人に事前面談を行い良好な関係を築くことで不安軽減に努め、入所時はなるべく付き添い会話をする事で安心が得られるよう努めています。	入所前にご本人や家族様への面談をおこない基本情報を参考にしながら良好な関係を作り会話の中から不安や要望を聞き出し助言する事で少しでも安心されるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にホームの見学をして頂き、ホームの雰囲気や利用者様の様子を見てもらい、ご家族の思いや不安などを聞き信頼関係が築けるように努めています。	入所前に施設見学をして頂きご家族様の心配事、要望などに回答することで早い段階からの不安軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネから得た情報やご家族並びに利用者様本人の思いを聞きながら支援方法を見極め職員で共有し、状況によっては他のサービス利用も話し合いながら対応に努めています。	ご本人をはじめ家族様、担当ケアマネ、または利用事業所より情報を頂きサービスへ反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの生活に生きがいを持てるよう、できる範囲の中で家事や裁縫、野菜作りを一緒に取り組む事で良好な関係が築けるよう努めています。	日常生活で出来ることを職員と共に分担しながら役割を持ち、支え合い教え合いながら良好な関係が築けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外出時にはご家族への協力をお願いし、面会時やモニタリングの際は利用者様本人の状況報告や家族様の状況などをうかがい良好な関係を築き、行事を通じてご家族、利用者様、職員と一緒に触れ合う事ができる様努めています。	家族様の面会時にゆつくりとされる環境づくり外出協力や施設行事への参加を呼び掛け家族様と過ごされる機会が増えるようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接のデイサービスや受診時、散歩時に知り合いの方と話ができるよう、またご家族には親類が集まる機会に外出の受け入れや近所の方の面会も受け入れている事を伝えています。	外泊まではいかないが盆・正月、供養等家族様が集まれる時に一時帰宅の受け入れのお願い、デイサービスで知人と会われたり受診時には顔見知りとの会話があるなど一時の交流を大切にしています。	以前からの馴染みの美容室の利用や、近くのお地藏さまへお参り、お店での買い物など一人ひとりの生活習慣を大事にしている。かつての同僚や近所の方の面会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士良好な関係が築けるよう食事やレクリエーション等ホールで過ごされる際の席の配置を工夫し、時には職員が中に入り孤立を防ぎ利用者様同士係わりが持てるよう支援しています。	利用者一人ひとりの過ごされ方を把握し気の合う方との関わりができる橋渡しや孤立されず楽しく過ごされる支援に心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お会いした際はご家族の近況や病院や他施設へ入所となられた際はそこの様子を伺い、話の内容によっては相談に乗るよう努めています。	外でお会いした時には挨拶や近況を伺いご家族様のご負担を伺う程度で支援までは至っていません。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で利用者様の思いや希望に添えるよう、また困難な場合は職員で検討し利用者様本位の支援ができるよう努めています。	生活歴を把握し出来るだけ個人の思いに添えるよう努めているが体調管理面で希望に添えない事もあります。	一人ひとりの心に寄り添い、日々の暮らしの中で、細やかに把握に努めている。表情の変化やちょっとした行動から心情や希望を推しはかることも多い。担当制をとっており、その情報は全職員が共有している。	
----	-----	---	---	---	---	--

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にケアマネジャーより得た情報やレクリエーションでの回想、利用者様やご家族との会話の中からこれまでの暮らしぶりを聞き職員で共有しています。	入所前の聞き取りや担当ケアマネジャー、家族様からの情報提供を職員で共有し、レクリエーション時の回想等で暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の能力やその日の状態に応じ無理なく過ごしていただけるよう声かけや支援を行い、日々の記録の記載によりケース会議等で利用者様について話し合いを行い現状の把握に努めています。	個々の能力や体調に合わせ無理なく過ごせるようケース会議、モニタリング等の機会に話し合い現状把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日頃の状況に気を配り変化が見られる際はその場で検討し、毎月のケース会議に反映させ、利用者様やご家族の意見を考慮しモニタリングを行い介護計画に反映しています。	モニタリング時に家族様からの意見や職員間でのケース会議、気付きノートを活用し現状に合うような介護計画を心掛けて作成しています。	利用者が自分らしく暮らせるようにきめ細かく具体的に全職員で作成された計画である。モニタリングも時間をかけ、利用者や家族の意向を活かし、利用者主体の計画である。満足度の評価を含め、利用者の状況によって柔軟に計画の変更も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録の記載や気づいた点を話し合いノートに記載し職員で共有できるよう努め、内容によっては介護計画の見直しに繋がっています。	個々の介護記録等により把握をし情報共有と話し合いをし介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者様との会話より得られた情報や利用者様の体調、日頃の生活の変化によりその時々生じる支援やサービスにも柔軟に対応できるようにしています。	ご本人の状態変化に応じて必要な下肢筋力強化等をレクリエーションに取り入れるなど柔軟な対応に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方への挨拶や園児との交流、中・高校生からの葉書やボランティアを受け入れた際は利用者様に返事、手作り雑巾を送るなどしています。また、避難訓練の際は地元消防団や地域協力員にも協力をお願いしています。	地区、近隣の保育園の運動会に参加や見学、地元での買物、周辺散歩などを支援しています。中・高校より季節のたよりが届きお礼状や雑巾作成の楽しみが出来ており、更なる地域資源活用に努めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係りつけ医への定期受診は職員もしくはご家族が行っており、ご家族の受診の際は日頃の状態を伝えていきます。面会時にはご家族に報告し、必要に応じてご家族、職員を交えて医師より話を聞くこともあります。	係りつけ医を受診される選択肢はあり近隣医院へ職員が付き添うことで細やかな状況報告、往診依頼が可能であり緊急時に対処できています。	契約時に話し合いを持ち、利用者や家族が希望するかかりつけ医である。近くのかかりつけ医での受診は職員が支援している。専門医での受診は、家族が同行している。協力医療機関とは、何時でも連絡、相談ができる関係である。歯科は、訪問診察で診てもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員では判断ができない医療的支援が必要なときに相談しアドバイスをもらい、状態に応じて受診に繋げています。	利用者の体調変化の気づきを相談でき医院休診時や利用者の急変時の助言や看護があり適切な受診判断に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換や入院中の様子を聞き、カンファレンスへの参加やリハビリ方法を聞くなど、他職種との関係づくりを行っています。	入院時の情報交換や入院中は状態把握に出向き病院スタッフとの情報交換を行い退院時はカンファレンスに同席する事で退院後の対応に役立てています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては契約時に説明を行い、ホームでの対応が難しくなった際はご家族に説明を行い、状態に応じて職員、ご家族、係りつけ医を交え話し合いを行います。	契約時に重度化した場合の説明を行いホームでの対応困難時は主治医、家族様との話し合いの場を設けるなど納得がいく話し合いの機会を設けています。	利用者や家族の意向を踏まえながら事業所としてできる最大の支援方法や、できないことを説明し納得を得ている。本人の健康状況の変化があるごとに、主治医や家族へ連絡や相談を行い、家族の同意を得ての同歩調の支援である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会に参加し、会議などで報告を行っています。急変時や事故の際対応はできているが、定期的に初期手当や対応の訓練ができておらず実践力を身に付けているとは言えません。	今季の緊急時研修参加はなく以前に得た知識のみであり緊急時マニュアル熟知と定期的に訓練の機会を作る必要があります。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画書をもとにマニュアルを作成し、毎月避難訓練を実施しています。また、地域の消防団や地域協力委員の参加により夜間を想定した避難訓練を行っています。	災害マニュアル作成、災害想定避難訓練での経路確認、備蓄品確保ができています。消防署、地元消防団と合同夜間避難訓練、毎月末実施の避難訓練の度、誘導手段の再検討を行っています。	消防計画によって年に2回の避難訓練を消防署、地元消防団、地域協力員等の協力を得ながら実施している。また、居室の入口に「歩行」「車椅子」「手引き」「杖歩行」の札が常時掛けられており、確実な避難誘導を図っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損なわないよう、また利用者様のペースに合わせ声かけ等行っているが、気配りに欠ける声かけや対応が見られることがあり、反省する点が見られます。	人格を尊重し敬いの気持ちで接していますが突発な行動に対し気配りを欠く対応があったりトイレ使用時にプライバシーを損ねてしまう反省点があります。	支援目標の第1に「人格の尊重」を掲げてあり、利用者の尊厳を尊重することを支援の基本にしている。これまでの人生経験や誇りを大事にし、心情を推しはかつての支援である。評価調査時にもその具体的な支援場面的一端を見受けることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との係わりの中で思いや希望などを聞き出せるよう声かけや支援を行い自己決定できるよう努めています。	些細なことも自己決定の働きかけの場面があり表情に注意を払い思いに気付く支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースに合わせることを心掛け支援していますが、全体の流れや職員のペースで対応している部分も見受けられます。	職員の都合を押し付けず利用者のペースに合わせた生活の大切さは理解できており利用者の希望に耳を傾け出来る範囲で支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔や整髪、入浴時の洋服選びなど支援を行い、持参した化粧水等を自分で塗る方もいます。整容が難しい方は職員が手伝い身だしなみに気を付けています。また、ご家族が面会時髪をカットして下さり、美容室に行かれる方もいます。	各自で整容をしていただき不足分を介助しています。また美容室へ家族様と行かれる方や好みの服に着替えられる方への支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや注ぎわけ、お盆拭き、食器を拭くなどできること手伝って頂き、献立の説明や会話、食べやすいよう工夫し楽しみがもてるようしています。	食事は職員と調理の下ごしらえや片付けを分担しながら畑で採れた野菜や頂いた食材を利用した献立への変更の相談、漬物作りでは味の批評が有り其々の好み把握でき楽しみな時間になっています。	職員も一緒に同じ食事をいただきながらの家庭的な雰囲気のある食事風景である。そっと食事介助をしたり、さりげない声かけをしている。台所で調理される香りや音は、利用者の食事に対する楽しみを増している。ごぼうそぎや副食の注ぎ分けをしている利用者も見受けられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの摂取状況に合わせてテーブル高さを調節し、食事量や形態を考慮し提供しています。また、水分も味に工夫を凝らし、摂取回数を増すなど水分不足にならないよう努めています。	減塩や糖質控えめ、量や形態を個々に合わせ提供しています。好みの飲み物で水分補給回数が増える工夫、代替食も取り入れるなど支援できています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が洗面台に誘導し、まずは声かけし行ってもらい、出来ないところを職員が介助しています。週に2回義歯消毒を行っています	毎食後に歯磨き誘導し含嗽や仕上げ磨きの必要な方への声掛け、義歯洗浄を個々に合わせ行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレを使用していただき、利用者様の能力に応じた支援を行っています。尿意の無い方には定時の誘導や手混ぜをされる為言葉遊びを壁にはり読んでいただくなど工夫を凝らし自立支援に向けています。また、尿路感染症になりやすい方は清拭を行っています。	排泄パターンを把握し早めの誘導に心がけ布パンツへの移行の試みやゆっくりと排泄できる環境提供を行い汚染を減らせる事を目指しています。	排泄チェック表の活用や排泄サインの観察などから、一人ひとりの排泄習慣やトイレ時間の把握ができており、それぞれの生活リズムに添った支援である。それとない誘導で、トイレでの排泄を促している。意に反しての失禁には、人権に十分に配慮しての対応支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を記録し、便秘が続くようであれば乳製品等提供し、腹部マッサージ、歩行訓練などを行い便秘予防に努め、長期間続くようであれば係りつけ医に相談しています。	日常的に排便状況を把握し水分補給や運動を促し乳製品、繊維質の多い食事等の提供で排泄に繋げ更に排便困難な方に対しては主治医への相談を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっており、受診者を優先し、体調や希望を聞き、ゆっくり入浴できるように努めています。入浴の際、職員との会話を楽しませている方もおられ対応しています。	週3日の入浴提供ですが毎日希望があるときは隣のユニットで対応可能です。家庭風呂の為、一番先を好まれる方への偏りがあるが気分や体調に合わせた声掛けができており入浴後の安らぎがあります。	基本的な入浴日はあるが、お湯の準備は毎日できており、希望する方は何時でも入浴できる。入浴を楽しみにしている利用者も多く、現在は入浴を億劫に思われる方はいない。車椅子利用の方には、二人の職員で支援にあたっている。ヒートショックにも十分に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具の調整に気を配り、安心して休むことができるように支援しています。日中傾眠される方もおられ、居室でゆっくりつろいでもらえるように対応し、時には職員が添い寝し休まれる方もいます。夜間不眠になられる方は訴えを聞くなど、その都度対応しています。	午睡が定着し足を伸ばし休まれることで浮腫軽減やリラククス効果があり室温調整、騒音に留意し安眠に繋がる環境を提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬予防の為朝礼時に「服薬について」の唱和を行い、受診時に係りつけ医の指示を報連相ノードに記載し、共有。薬の変更があった際は薬剤提供表に記載し内容の把握や次の受診までの様子観察を行うよう努めています。	薬情により職員間で使用目的、副作用を把握し服用後の症状の変化に注意を払い医師への報告ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝い、毛糸のたわしや雑巾作りを行うことで役割を感じていただいています。また、職員と一緒に饅頭やおはぎづくりなど行事食の工夫や外出により気分転換が出来るように支援しています。	家庭で出来ていた調理や洗濯、掃除、野菜作りなど出来ることを分担し役割があることが自信に繋がられています。散歩やドライブ、買い物を楽しまれ気分転換が出来る支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、隣接のデイサービスへのボランティア見学に出かけ、町外へのドライブも行っています。またご家族の協力を得て外出を行っています。	ドライブは少人数に限られスーパーへの買い物でも喜ばれています。天候が良い時の外気浴や散歩がお茶会に替わったり外の空気に触れる機会が持っています。また、家族様へ外出協力をお願いする支援も努めています。	「ここもいいけど、やっぱり外に出たい」という利用者の声に応えている。ホーム周りの散歩で四季の移り変わりを感じたり、外気を味わったりしている。玄関先やウッドデッキでの外気浴もあり、利用者のお気に入りでもある。家族の協力も得ながらの四季折々のドライブもある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自身で所持している方もおられますが、通常はお小遣いとして職員がご家族より預かり、日用品の買い物や医療費等必要に当てています。利用者様より購入希望があれば一緒に買い物に行くなどしています。	安心感のために少額のお金をお持ちの方がいますが仕舞い込みによる盗られ妄想があります。小遣いとして家族様から預かった中から希望のものを購入される方も少なく買い物の際に購買を促していますが使われる方は少ないです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や利用者様からの要望があればその都度対応するようにしています。中・高校生のボランティアの葉書にお礼の葉書を出される方もいらっしゃいます。	電話希望があれば可能な限り声を聞いていただき言語不自由な方は代弁の支援をしています。季節の便りや手紙を貰われたら返事を勧めるお手伝いも出来ています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が持参した花や庭の花を飾り、ホール等の壁には季節の作品を掲示し雰囲気作りに努めています。また、机や椅子の配置、空調、BGM等に気を配り、利用者様が居心地良く過ごせるように工夫しています。	室内には季節を感じさせる作品や飾りがあり話題作りにもなっています。午後の西日はカーテンで調整し空調、BGMやテレビの音量に気を付けソファでも寛げるよう十分な広さがあります。	ソファや簡単に運べる椅子の位置を変え、利用者同士や職員と会話を交わしたり、簡単な運動ができるように工夫がなされており、そこで思い思いにくつろいでいる様子がうかがえる。居間からはホームの畑や登下校する児童の姿も見受けられる。居間には新聞や雑誌が置かれ、好みで選べる飲み物の準備もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の希望に合わせて一人になれる時間を設けたり、気の合う利用者様同士が思い思いに過ごせるよう声掛けや席の移動を行っています。	ソファで過ごされる時間が多く気の合う方との会話が聞こえてきます。居室で過ごされる方には時々声掛けを行う程度でご本人のペースを大事にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使いなれた寝具、タンスを持参して頂き、中には仏壇を持参している方もいます。自宅にいるような雰囲気作りに努めて、利用者様の希望に合わせて作成された作品を居室に飾っています。	入所時に使い慣れたものを持参されて良いことを伝えていますが、新しく購入される方が多いです。仏壇や家族の写真は安らぎのものになられています。	それぞれの方が自分らしくゆつくりと過ごせる居室になっている。家族の写真、長年使ってきた手鏡、趣味の道具、化粧品、寝具、その他いろいろなものがあり、家族の協力を得ての居心地の良い居室になっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	トイレには利用者様に分かるように 使い方を掲示しています。居室入口 や椅子などには個人の名前を書き 分かりやすくしています。	トイレや自室が分からない方には名 札や目印になるものを見えるところ に置くことや座席に名前を貼る事で 迷われない工夫をしています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		○	1. 毎日ある
		○		2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない